

## 実践事例 1

# 「神秘の山・大山（表現運動）」の実践を通して

米子市立河崎小学校 内田 誠

### 1. はじめに

表現運動は、様々なアイデアや工夫を凝らして動きをつくり、自分以外のものになりきることが楽しい運動である。また、友だちの表現を見て、共感したり、感動したりすることが楽しい運動である。

本学級の児童は、運動に対する興味・関心が高く、リズムにのって体を動かすことが好きな児童が多い。しかしながら、これまで運動会のダンスを除いて表現リズム遊びや表現運動の経験が少ないため、即興的に体を動かすことが難しいと考える児童が多いことが、アンケート結果から見られた。

したがって、授業では、体全体を使って踊ったり、心を開放して運動したりする場面を設定して、イメージしたことを表現できる豊かな表現力を身につけさせたいと考えた。また、友だちと関わり合い、アイデアや工夫を凝らして動きをつくり上げ交流する活動を通して、共感的なコミュニケーションの力が身につくと考えた。そのために、身につけさせたい力を明確にして、技能の習得を図り、単元前半で身につけてきた力を単元後半で活かすことができるような学習の流れを考えたい。

### 2. 指導の実際（全8時間）

#### (1) 単元のねらい

単元全体を通して、「習得」の時間を設定することで技能をしっかりと身につけさせたいと考えた。単元の後半になるに従って、「活用」の時間を徐々に増やし、表現運動の特性に触れた楽しさを感じさせたいと考えた。

#### <学習の前半>

○いろいろな激しい動きをイメージし、その題材の特徴をとらえて踊る。(わかる・できる)

#### <学習の後半>

○友だちと協力して「はじめ—なか—おわり」の簡単なひとまとまりの流れをつけた動きをつくる。(活かす・挑戦する)

#### (2) 指導にあたって

指導にあたっては、児童の学びへの働きかけとして「学習指導計画の工夫」「体ほぐしの設定」「ふりかえり板の活用」「タブレット情報端末機器の活用」の4つを意識して進めていった。

#### ① 学習指導計画の工夫

	1	2～5	6・7	8
主 な 学 習 活 動	・オリエンテーション ・体ほぐし	・体ほぐし		発表会
		活動1	活動2	
		<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     ○いろいろな激しい動きをイメージし、その題材の特徴をとらえて踊る。(わかる・できる)                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・稲妻 ・火山の爆発 ・洗濯</li> <li>・はじけるポップコーン</li> <li>・ジャングル</li> </ul>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     ○友だちと協力して「はじめ—なか—おわり」の簡単なひとまとまりの流れをつけた動きをつくる。(活かす・挑戦する)                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大山の木々 ・崩れ落ちる登山道 ・大山に吹く風 など</li> </ul>	

5年生まで表現運動の経験がほとんどない児童の実態から、「4つの崩し（空間、体、リズム、人間関係）」を中心につけたい力を明確にし、それを獲得でき得る学習課題を設定した。そして、指導計画の後半にかけて身につけた技能を活用して表現していく時間を増やしていった。

## ②「体ほぐしの設定」

心を開放して運動する場面を設定するため、毎時間の初めに体ほぐし運動を行った。課題の設定は、前時までで身につけた技能を生かして活動できるものを選び、学習課題への繋がりを意識して取り組んだ。

時間	1	2	3	4	5	6	7	8
つけたい力	オリエンテーション	空間の崩し (体の高低、左右の動き)	リズムの崩し (同じ動き、逆極の動き)	動きの急変 (大小、静動)	動きの急変 (スローモーション)	「はじめ 一中 一おわり」	「はじめ 一中 一おわり」	「はじめ 一中 一おわり」
体ほぐし		体の崩し (体のねじり、目ず動き)	人間関係の崩し (友だちとのからまり)					
		・胸のりと軽拍あう ・膝たたき ・肩たたき	・あいさつ スキップ	・だるまさんが 転んだ	・ミラー	・タッチ& エスケープ	・新聞紙	・人間チェン

## ③「ふり返り板の活用」

米子市で大切にしている「ふりかえり板」を活用し、児童が仲間と振り返り、話し合う時間を設定した。振り返りでは、技能面と情意面（楽しさ）を前時からの意識の変化を伝え合うようにしている。毎時間の意識の変化を見取りやすくするため、時間ごと透明シートにシールを貼り付けるようにした。



## ④「タブレット情報端末機器の活用」

児童が自分たちの動きを客観的に見取る手段として、即時性と操作性を加味してタブレット情報端末機器を活用した。児童が活動している場ですぐに見られることもあり、自分たちが想像していた動きと実際の動きとの違いに気づけるようにした。その際、譜面台を活用し、体を動かしながら話し合いができるように考えた。



## 3. 成果 (○) と課題 (☆)

- 表現に必要な技能を多く習得することができたので、活用の場面で児童の多様な動きを引き出すことができた。
- 体ほぐしを楽しみにしている児童が多く、全身を使って表現する姿が見られるようになったり、児童が互いに関わり合う様子が増えたりした。
- 「ふりかえり板」に毎時間の様相にシールを貼ることにより、児童の意識の変化がよくわかった。意識が低下している児童には声かけをすることによって、次時への意欲づけに繋がった。
- タブレット情報端末機器の活用により、児童が活動している場ですぐに要点の指導を容易に行うことができた。児童も自らの振り返りで、思考と動きのずれを感じ、修正する姿も見られた。
- ☆つけたい力の幅が広がってしまったため、一つ一つの技能の質が低かった。(主となる動きの見極め)
- ☆振り返りの際の技能面（できばえ）の、評価の観点の徹底が不十分で、グループの中での相互評価が十分に行えなかった。
- ☆指導者が一人で行う場合、タブレット情報端末機器での撮影に一定時間がさかれ、グループを回って十分に指導できないことがあった。指導に有効な場面を絞ることと、児童が自由に操作して教具として扱えるようにするなど活用の仕方を工夫する必要があった。